

平成 2 7 年度事務事業点検・評価報告書

平成 2 9 年 1 月
江戸川区教育委員会

1 はじめに

この報告書は、江戸川区教育委員会が効果的な教育行政の推進と区民への説明責任を果たすため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という）第26条の規定に基づき、平成27年度の事務事業の管理及び執行状況について、学識経験者の知見を活用し、点検・評価を実施し、その結果をまとめたものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 平成 27 年度事務事業の点検・評価方法等

(1) 対象事務事業の選定

平成 27 年度に教育委員会が取り組んだ主要な事務事業の中から、下記の 7 事業を点検・評価の対象として選定した。

(評価対象事業)

	評価対象事業名	所管課
1	「教育用 I C T 総合活用支援」	教育推進課
2	「学校版もったいない運動」	学務課
3	「日本のしらべ」	指導室
4	「観察実験アシスタント」	指導室
5	「手洗所大規模改修工事」	学校施設担当課
6	「教育相談」	教育研究所
7	「登校サポートボランティア活用事業」	教育研究所

(2) 点検・評価の方法

内部点検・評価

点検・評価の対象として選定した事務事業について、施策を実現するための執行実績を「有効性」、「成果」、「効率性」の視点から点検・評価するとともに、課題と問題点を洗い出し、今後の対応方向を示した。

外部評価

点検・評価の客観性を確保するため、様々な分野で教育施策や人材育成に携わるなど、教育について高い見識を有しており、従前から本区の教育施策に対し指導、助言をいただいている学識経験者が

ら、点検・評価の対象とした事務事業の有効性と今後に向けた取組等に関する意見等を聴取した。

点検・評価の流れ

対象とした事務事業について、当該事業の所管課が自ら点検・評価を行ったうえで、教育委員会が内部評価を実施し、その評価内容を学識経験者に提示し、外部評価を実施した。

評価指標

a. 内部評価

以下の評価指標をもとに5～1の5段階で評価を行った。

(評価指標)

評価基準	主な評価指標
成果	計画どおり事業が執行され成果をあげられたか ・年次目標・計画の設定は妥当であったか ・計画に即して円滑に事業を執行できたか ・目標とする効果・成果をあげることができたか
有効性	教育目標達成に向けた有効な取組となっていたか ・事業内容は妥当であったか ・時代の要請に適応した事業内容となっていたか ・児童生徒の教育上、真に有効な取組であったか
効率性	適切な手法・手段により事業が実施されたか ・適正な経費で目標とする効果を挙げられたか ・効率的な手法・手段となっていたか ・対象とする範囲は適正であったか

(評語の定義)

評語	内 容
5	計画に即して適正に事業が執行され、当初目標以上の成果・効果が得られた。
4	計画に即して概ね適正に事業が執行され、当初目標とした成果・効果を得られた。
3	事業の一部見直し・改善を図っていく必要があるものの、当初目標とした成果・効果をほぼ得られた。
2	当初目標とした成果・効果をあまり得られず、事業手法や執行体制等、大きな見直し・改善が必要。
1	事業を廃止（または休止）

b. 外部評価

(評語の定義)

評語	内 容
A	教育目標達成のために大きな効果がある事業であり、引き続き事業を実施していくべきである。
B	教育目標達成のために一定程度の効果が期待できる事業であり、さらに工夫、改善を加え、事業を継続していくべきである。
C	改善すべき点が多く、期待した効果が少ない。事業の大幅な見直し、または廃止を検討する必要がある。

(3) 学識経験者（外部評価者）

尾 木 和 英 東京女子体育大学名誉教授

堀 内 一 男 国際理解支援協会シニアアドバイザー

(元・跡見学園女子大学教授)

以上 2 名

3 各事務事業の評価

事業名	教育用 ICT 総合活用支援
事業目的	全ての教員が全ての教科・授業において、積極的かつ効率的なコンピュータ活用とスムーズな運用ができるよう総合活用支援を実施する。
事業概要	<p>実施内容・実績</p> <p>委託先 ラインズ株式会社</p> <p>業務体制 1.アシスタント 7名 2.ヘルプデスク 2名</p> <p>業務内容</p> <p>1.教育委員会への報告・相談 活動計画の立案・準備・実施 活動報告会・打ち合わせの実施 活動報告書の提出</p> <p>2.アシスタントによる学校訪問支援 授業活用及び教育業務支援 定期訪問(月2回以上) 訪問復旧業務 保守業者との連携</p> <p>3.授業活用支援 カリキュラム提案 コンテンツ・ツール類の提案 各種情報の提供</p> <p>4.教育業務支援 チームティーチング 授業前後の作業支援 環境設定 教員向け講習会 家庭学習</p> <p>5.ラインズ連絡メールシステム支援</p> <p>6.支援用ホームページ更新</p> <p>7.ヘルプデスク業務 問合せ受付 アシスタント管理 保守業者との調整・進捗管理 報告</p> <p>8.夏季講習会の開催(全8回)</p> <p>経費</p> <p>79,946 千円(委託料 小学校 54,493 千円 中学校 25,453 千円)</p>

内部評価	<p>成果 アシスタントの定期訪問時の働きかけにより、小学校 73 校（100%）・中学校 29 校（88%）で連絡メールが導入された。 また、家庭学習導入校が小学校 62 校（87%）、中学校 33 校（100%）となった。</p> <p>有効性 家庭学習支援やカリキュラムの提案、教員向け夏季研修の実施等により活用が進んでいる。 特に、家庭学習の導入が進み、自宅での予習・復習が容易に行えるようになった。</p> <p>効率性 全ての学校に月 2 回以上の訪問を行うため、区内を 7 地区に分割し、効率的に巡回を行っている。</p>
今後の課題	<p>学校 ICT 機器の更新による利用形態の変化や、特別支援教室設置に伴う指導体制の改善などが進む中、全ての教科・授業をはじめ、家庭学習においても、積極的かつ効率的なコンピュータ活用とスムーズな運用ができるよう、更に体制を整備していくことが必要である。</p>
総合評価 4	

学識者意見	<p>各学校における ICT 活用を支援することには大きな意味がある。本事業は、各学校における指導開発に対して情報を提供するとともに、教育活動の充実を促す効果がある。また、家庭学習を効果的に行うことは各学校の課題になっているので、その面でも有効性が認められる。今後も、改善を加えたうえで継続をすることが求められる。</p> <p>本事業をよりよく生かすための学校体制への働きかけがあって、この事業が生きることを考慮に入れて事業展開する必要がある。</p> <p>授業に ICT 機器を導入し、授業効率を高める機運が高まっている。しかしながら、その活用状況には、学校差、教科差、学級差が生じているのが実態である。</p> <p>ICT の活用法に迷っている教員にとって、相談したり、指導を受けることができる本事業は、大変有意義である。本事業を活用するためには、ICT を活用した授業づくりを本気で考える、意欲の高い教員を育成することも重要である。</p>
外部評価 B	

事業名	学校版もったいない運動												
事業目的	<p>環境行動計画、エコタウンえどがわ推進計画の方針に基づき、温室効果ガス排出量の削減を目的にした光熱水使用量削減およびごみの減量を実現させる。</p> <p>維持的経費を節減し、効果的な予算の執行を目指す。</p>												
事業概要	<p>実施内容・実績</p> <p>概要</p> <p>対象</p> <p>区立小学校（73校）・中学校（33校）・幼稚園（3園）</p> <p>活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成13年度に「資源循環型学校づくり」をスタート。平成21年度「学校もったいない運動」に名称変更。江戸川区が推進する「もったいない運動」に取り組み「物を大切に作る心」の育成を目指した。 平成22年度に「学校版もったいない運動」に名称変更。 環境フェアにおいて活動報告パネルを全校分展示。 児童、生徒が委員会等で呼びかけるなど自主的な活動を継続している。 <p>小・中学校における生ごみ排出量の推移</p> <table border="1" data-bbox="400 1825 1417 1937"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>23</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> <th>27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生ごみ量(kg)</td> <td>752,961</td> <td>749,095</td> <td>673,775</td> <td>663,833</td> <td>631,309</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">過去最大 平成18年度 913,640 kg</p>	年度	23	24	25	26	27	生ごみ量(kg)	752,961	749,095	673,775	663,833	631,309
年度	23	24	25	26	27								
生ごみ量(kg)	752,961	749,095	673,775	663,833	631,309								

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">内部評価</p>	<p>成果 生ごみの搬出量については、給食委員会を中心に残菜ゼロ運動、栄養士による食育指導など学校の取り組み成果が表れ、前年度比小学校 4.5%、中学校 5.5%減少した。</p> <p>有効性 ものを大切にすゝる気持ちや地球環境の改善を基本に、区内の児童、生徒、園児と教職員全員が目標を設定し、環境教育をすることで「エコタウンえどがわ」の実現を目指している。</p> <p>< 小学校の取り組み ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食時間に「もぐもぐタイム」を設け、食べることに集中している。 <p>< 中学校の取り組み ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会で「残菜ゼロ運動」を行い、残菜ゼロの日数を競い優秀なクラスを表彰している。 <p>効率性 各学校（園）ごとに目標の設定、達成度や効果を考察し、翌年の目標に反映することができるため、効率的に目標の実現を目指すことができる。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の課題</p>	<p>平成 21 年度よりもつたない運動に取ゝり組み、幼稚園、小・中学校全体としては一定の成果を上げてゝいる。ごく少数校ではあるが、取ゝり組みと成果が結びつかない学校（園）も見受けられる。今後は、これまでの取ゝり組みを踏まえ、児童、生徒、園児、教職員がさらに積極的に活動ができる方策を講じる必要がある。</p>
<p>評価 4</p>	

<p>学 識 者 意 見</p>	<p>環境教育に関しては、知識面中心での教育活動は展開しやすいが、それを行動と結びつけるような実践が課題になっている。それだけに、全児童・生徒に働きかけるような要素を持った本事業については、さらに創意工夫を加え、一層の充実を図る事が期待される。</p> <p>取組と成果が結び付いていない校(園)については、その要因がどこにあるかをきめ細かく把握し、改善を加えることによって成果を得られるようにすることが望まれる。</p> <p>環境教育の推進が叫ばれていても、生活の中で具体的に調べ、思考することは少ない。本事業は、江戸川区が区民運動として推進している「もったいない運動」を校内で展開すること、それ自体がすばらしいことである。</p> <p>学校では、「給食での残菜ゼロ」「無駄な点灯ゼロ」など、具体的な到達目標を掲げ、学校全体で取り組むことができる。環境に対する児童・生徒の意識を高めることで、持続可能な社会づくりの一翼を担う人材を育成することが期待される。</p>
<p>外部評価 A</p>	

事業名	日本のしらべ																						
事業目的	邦楽邦舞の演奏者や舞踊家及び郷土芸能の演者を中学校に派遣し、我が国の伝統的な音楽や舞踊に中学生が直接触れ、邦楽に対する総合的な理解と幅広い観賞力を高める機会とする。																						
事業概要	<p data-bbox="419 504 655 544">実施内容・実績</p> <p data-bbox="419 562 552 598">実施内容</p> <p data-bbox="419 604 686 680">(1) 事業の開始 平成4年度</p> <p data-bbox="419 728 619 763">(2) 対象者 区立中学校の全生徒 各年度11校ずつ、3年間で全中学校33校で実施することにより、生徒は中学校在籍中に必ず一度は体験できる。</p> <p data-bbox="419 893 584 929">(3) 演目 江戸川邦楽邦舞の会 常盤津(浄瑠璃・三味線) 箏曲、尺八、琵琶、日本舞踊、鳴物 東都葛西囃子睦会 葛西囃子</p> <p data-bbox="419 1216 488 1252">実績</p> <table border="1" data-bbox="502 1270 1453 1447"> <thead> <tr> <th data-bbox="502 1270 611 1341">年度</th> <th colspan="2" data-bbox="611 1270 1220 1341">実施校</th> <th data-bbox="1220 1270 1453 1341">対象生徒数 (27.5.1在籍数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="502 1341 611 1447">27</td> <td data-bbox="611 1341 722 1447">11校</td> <td data-bbox="722 1341 1220 1447">二之江・葛西・南葛西・西葛西・東葛西・瑞江三・鹿骨・篠崎・小岩一・小岩二・小岩五</td> <td data-bbox="1220 1341 1453 1447">6,343人</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="419 1473 523 1514">経費</p> <table data-bbox="451 1550 957 1955"> <tr> <td data-bbox="451 1550 794 1590">歳出決算値</td> <td data-bbox="794 1550 957 1590">8,156千円</td> </tr> <tr> <td data-bbox="451 1624 794 1664">内訳 出演者謝礼</td> <td data-bbox="794 1624 957 1664">2,200千円</td> </tr> <tr> <td data-bbox="451 1697 794 1738">演台用花</td> <td data-bbox="794 1697 957 1738">33千円</td> </tr> <tr> <td data-bbox="451 1771 794 1812">事前学習資料</td> <td data-bbox="794 1771 957 1812">401千円</td> </tr> <tr> <td data-bbox="451 1845 794 1886">舞台操作委託</td> <td data-bbox="794 1845 957 1886">5,311千円</td> </tr> <tr> <td data-bbox="451 1919 794 1960">楽器運搬料</td> <td data-bbox="794 1919 957 1960">211千円</td> </tr> </table>			年度	実施校		対象生徒数 (27.5.1在籍数)	27	11校	二之江・葛西・南葛西・西葛西・東葛西・瑞江三・鹿骨・篠崎・小岩一・小岩二・小岩五	6,343人	歳出決算値	8,156千円	内訳 出演者謝礼	2,200千円	演台用花	33千円	事前学習資料	401千円	舞台操作委託	5,311千円	楽器運搬料	211千円
年度	実施校		対象生徒数 (27.5.1在籍数)																				
27	11校	二之江・葛西・南葛西・西葛西・東葛西・瑞江三・鹿骨・篠崎・小岩一・小岩二・小岩五	6,343人																				
歳出決算値	8,156千円																						
内訳 出演者謝礼	2,200千円																						
演台用花	33千円																						
事前学習資料	401千円																						
舞台操作委託	5,311千円																						
楽器運搬料	211千円																						

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">内部評価</p>	<p>成果 区立中学校の全生徒が日本の伝統・文化に直接触れることで、伝統芸能や郷土芸能のよさを味わい、興味・関心を高めることができた。</p> <p>有効性 本事業は各学校を会場として実施しており、以下の点について有効性が高い。</p> <p>演者と近い距離での鑑賞となり、息遣いを肌で感じることができ、そのため、伝統芸能の素晴らしさを身近に感じとることができるとともに生徒の情操教育という点でも効果が期待できる。</p> <p>演目中には、専門家の指導の下で舞踊を体験したり、楽器に触ったりする機会もあり、伝統文化を直接味わうことができる。</p> <p>効率性 学校単位で実施しているため、授業時間を減じることなく鑑賞することができる。また、大人数での実施に比べて、生徒が体験したり、質問したりする機会を確保しやすい。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の課題</p>	<p>各学校が音楽科の年間指導計画に位置付け、より計画的に実施していくことが課題である。</p> <p>また、学習指導要領に示されている伝統文化の尊重の理念を踏まえ、事前や事後の学習をどのように実施することがより効果的なのか検討していく必要がある。</p>
<p>総合評価 5</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学識者意見</p>	<p>児童・生徒を取り囲む生活環境が変化し、伝統文化を実感する機会は極端に減少している。伝統文化の重要性を認識するためには、やはりこれにかかわる内容に直接触れ、興味・関心を高めることが大切であり、そこに本事業の意義がある。</p> <p>本事業を生かすためには、各学校の教育計画との関連を十分に図る事が欠かせない。事業展開の前提として、その面での各学校、関係教員への働きかけが重要である。</p> <p>普段触れることが少ない邦楽や舞踊、日本古来の和楽器の演奏に生徒が直接触れることで、一生忘れることのできない「日本の伝統文化」と出会うことができる。</p> <p>自分たちが生活している地域の伝統文化である葛西囃子を演目に入れることで、地域の伝統文化への関心を深める効果も期待できる。</p>
<p>外部評価 A</p>	

事業名	観察実験アシスタント																
事業目的	<p>小学校の理科授業における観察・実験を充実させるため、第5・6学年の理科授業に外部人材を観察実験アシスタントとして配置する。</p>																
事業概要	<p>実施内容・実績</p> <p>実施内容</p> <p>(1) 小学校第5・6学年の理科授業について、教員を支援する。支援の内容は、以下のとおりとする。</p> <p>理科室及び理科準備室など特別教室の環境整備 観察・実験の補助・準備・片付け 観察・実験の計画立案の支援や教材開発の支援 観察・実験の方法等の提案・助言</p> <p>(2) 対象及び上限時数 第5・6学年で1学級あたり年間25コマを上限とする。 (準備・片付け及び理科室の整備を含む。) 1日あたりの上限は6コマとする。</p> <p>(3) 派遣日及び時程 学校と観察実験アシスタントの協議により決定する。</p> <p>(4) 謝礼等 次のとを合計した金額を観察実験アシスタントに支払う。 授業の補助・準備・片付け及び理科室の環境整備に対する謝礼 授業1コマ当たりの単価 1,300円 授業1コマに係る準備・片付け及び理科室の環境整備を含む。 交通費(自宅と学校の往復の実費額)</p> <p>実績</p> <table border="1" data-bbox="502 1444 1332 1624"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>配置校</th> <th>観察実験アシスタント</th> <th>指導時間(延べ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25</td> <td>46校</td> <td>45人</td> <td>4,507時間</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>49校</td> <td>43人</td> <td>5,261時間</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>46校</td> <td>39人</td> <td>4,563時間</td> </tr> </tbody> </table> <p>運用体制</p> <p>学校が観察実験アシスタントとなる外部人材を探す 学校が区教委に導入申請を行う 学校が区教委に毎月の実績報告を行う 区教委から観察実験アシスタント本人に謝礼を支払う</p>	年度	配置校	観察実験アシスタント	指導時間(延べ)	25	46校	45人	4,507時間	26	49校	43人	5,261時間	27	46校	39人	4,563時間
年度	配置校	観察実験アシスタント	指導時間(延べ)														
25	46校	45人	4,507時間														
26	49校	43人	5,261時間														
27	46校	39人	4,563時間														

	<p style="text-align: center;">経 費</p> <p>歳出決算値 6,529 千円</p> <p>歳入決算値 国庫補助金 2,151 千円 都補助金 2,151 千円</p>
内部評価	<p>成 果 平成 27 年度「全国学力・学習状況調査」での小学校第 6 学年を対象とした質問紙調査において、設問「理科の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答の割合は、24 年度の 79.7% から 4 ポイント向上し、83.7% となり、国及び都全体の数値(国 : 83.5%、都 : 83.0%) を上回った。</p> <p>有効性 小学校における理科授業を充実させるためには、実感を伴った理解が得られる観察・実験の充実が不可欠である。観察実験アシスタントが教員を支援することで効率的に観察・実験が行えるようになるだけでなく、より多くの種類の器具や薬品等を用いた観察・実験が可能になるなど、観察・実験の質も充実する。以上のことから、観察実験アシスタントの配置は、有効性が高いと言える。</p> <p>効率性 観察・実験を伴う理科授業については、その時間だけでなく事前の準備や後片付け等の対応も必要であり、日常的に空き時間のない小学校教員が行うことは、困難である。教員ではない観察実験アシスタントの活用によって、この課題が解決するだけでなく、さらに観察・実験の質が向上することを考えれば、非常に費用対効果が高い事業と言える。</p> <p>また、総事業費用の 2/3 については、国・都から補助を受けており、区の負担を抑えることができている。</p>
今後の課題	<p>観察実験アシスタントの配置を要望する小学校数が多いが、学校が独自に新規の候補者を発掘することが難しい状況にある。現在は、指導室が大学等に働きかけ、各小学校へ人材情報の提供を行っており、今後の人材の確保が課題である。</p>
総合評価 4	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学識者意見</p>	<p>様々な調査結果は、児童・生徒の理科に関する関心を高めることが課題であるとしている。本事業は小学校での理科授業の充実に働きかける意味を有しており、今後も、さらに工夫を加えて継続することが求められる。</p> <p>外部人材の確保や指導体制の整備などの課題はあるが、教員の理科授業に関する指導力向上に結び付くよう、事業の一層の充実を図ることが望まれる。</p> <p>観察実験アシスタントの学校配置は、実験のねらいを意識した授業づくりを支えるだけでなく、楽しく、あっと驚く授業を展開することに貢献しており、子どもたちが一番喜んでいる。</p> <p>教員とアシスタントの連携が大切であり、一人一人の教員は、アシスタント任せにしない意識を持つことが重要である。今後も、人材確保の方策を計画的に進めてほしい。</p>
<p>外部評価 B</p>	

事業名	手洗所大規模改修工事
事業目的	小・中学校のトイレの全面的なリニューアル工事を行うことにより、子どもにとって快適で使いやすいトイレ環境を整備していく。
事業概要	<p>実施内容・実績</p> <p>手洗所大規模改修工事の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修工事实施の基準は建築・改修後 30 年経過している手洗所大規模改修工事实施済みの学校数(平成 28 年 3 月 31 日現在) ・小学校 65 校、中学校 28 校 (改築した学校を除き最低 1 系統は改修済みの学校) <p>学校には各階の同じ位置にトイレが設置してあり、1 階から最上階までの給排水管が縦に接続されており、それぞれを 1 系統とする。</p> <p>主な工事内容</p> <ul style="list-style-type: none"> < 建築工事 > <ul style="list-style-type: none"> ・天井・内壁・床及びトイレブース等の全面改修 < 給排水工事 > <ul style="list-style-type: none"> ・和式便器の洋式化 和式便器の洋式化率...75.88% (4,697 台/6,190 台) 〔内訳〕 小学校...88.38% (3,415 台/3,864 台) 中学校...55.12% (1,282 台/2,326 台) ・男子小便器の取替 小便器取替済み系統...77.28% (211 系統/273 系統) 〔内訳〕 小学校...86.03% (154 系統/179 系統) 中学校...60.63% (57 系統/94 系統) ・配管類の全面改修 < 電気設備工事 > <ul style="list-style-type: none"> ・手洗所内照明の全面改修 (L E D 化) <p>経費</p> <p>平成 27 年度工事費 95,925 千円 内訳：南葛西第三小学校 50,414 千円 清新第三小学校 45,511 千円</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">内部評価</p>	<p>成果 トイレは、経年劣化により汚水やアンモニア臭などのにおい、床や壁などの黒ずみやカビ、タイルやブースの破損など暗く不衛生で汚くなりがちであるが、大規模改修工事により、天井・壁・床・トイレブース等の内装や照明器具等をリニューアルすることで、明るく衛生的で快適なトイレ環境が整備できた。また、和式便器を洋式化するなど、衛生器具の更新を行うことで機能的向上も図っている。</p> <p>有効性 学校のトイレは暗くて汚いから行きたくない、という理由で排泄を我慢することが減少するなど、児童・生徒の精神・身体衛生面における改善が図られる。また、児童・生徒が行う学級活動上の清掃活動においても「効果が見えやすくやりがいがある」、「トイレなのに床に水を流さないため行いやすい」、「乾式化されて拭き掃除で済むようになった」などの理由から、子ども達が積極的に携わるなどの効果がある。さらには、トイレをきれいに使うといった、施設を大切に使用する効果も見られる。</p> <p>効率性 工事を各階ごとに行うのではなく、1系統ごとに夏休みを中心に2か月半で工事を行うなど、工期短縮に努め、児童・生徒にかかる負担を少なくしている。</p> <p>また、建築工事・電気工事・設備工事を同時に行うことで、経費的にも効率的に行える。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の課題</p>	<p>国の補助金としてトイレの改修メニューとして挙げられているが、予算の都合で採択されることが無くなっているため、単費での工事となる。江戸川区では、小・中学校が104校と多く、外壁塗装や屋上防水・設備の入れ替えなど、建物を保全していくための必要な工事が多々あるため、今後もそれらの工事を同時期に行えるよう綿密に調整しながら行っていく必要がある。</p> <p>区では、改築や統廃合事業に着手している。そのため、劣化度や経過年数だけで工事を行うのではなく、今後の学校の改築計画や適正配置を視野に入れながら工事の可否・規模等を考えていかなくてはならない。</p>
<p>総合評価 5</p>	

<p>学 識 者 意 見</p>	<p>本事業は、児童・生徒の生活の基本に関わり、衛生面だけでなく精神面にも影響を有するだけに、実施上に様々な課題はあるが充実継続を図る事が求められる。</p> <p>実施された学校では、快適な環境改善が認められ、改めてトイレ環境の持つ意味を認識させるという効果も発揮している。工事の実施方法等に様々な工夫・配慮がなされているが、今後も、さらに改善を加えることが重要である。</p> <p>家庭のトイレが洋式化している現在、学校のトイレが和式であるため、利用を我慢する児童・生徒も多いと聞いている。</p> <p>現在、約75%の学校でトイレ改修を終え、子どもたちにとって利用しやすいトイレ環境の整備が進んでいることは、大変意義のあることである。今後は、まだ改修が実施されていない学校についても、急ぎ改修を実施することが望まれる。特に、登校しぶりの要因のひとつとなっている中学校において、改修を急いでほしい。</p>
<p>外部評価 A</p>	

事業名	教育相談			
事業目的	教育上の悩みをもつ児童・生徒とその保護者を対象に、心理士の資格をもつ教育相談員が来所相談や電話相談を通して、不安の解消に向けての助言や不登校児童・生徒の学校復帰に向けての助言を行う。			
事業概要	平成 27 年度 江戸川区の不登校児童・生徒数			
		小学校	中学校	合計
	学校数	73 校	33 校	106 校
	全児童・生徒数	35,334 名	16,472 名	51,806 名
	不登校児童・生徒数	133 名	653 名	786 名
	不登校：平成 27 年度に連続又は断続して 30 日以上欠席した児童生徒（「病気」や「経済的理由」による欠席を除く）			
	実施内容・実績			
	来室相談（教育相談室 3 室）			
		登録者数	延べ相談件数	
	27 年度	959 人	11,610 件	
26 年度	853 人	10,594 件		
教育電話相談（ ）内は相談件数のうち、いじめに関する相談件数				
	親からの電話	子どもからの電話	合計	
27 年度	387(10)件	13(2)件	400(12)件	
26 年度	418(17)件	14(1)件	432(18)件	
保護者（父母）以外からの相談件数も、「親からの電話」に計上。平成 27 年度は 39 件あった。				
相談件数の多い主訴 3 項目と件数				
〔来室相談〕				
27 年度	不登校：286 件	発達：225 件	学業関係：76 件	
26 年度	不登校：241 件	発達：211 件	対人関係：67 件	
〔電話相談〕				
27 年度	不登校：83 件	学校教育：52 件	養育上の問題：42 件	
26 年度	不登校：85 件	対人関係：48 件	養育上の問題：47 件	

	<p>経費 107,870 千円</p> <p>(内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費(教育相談室相談員 25 人) 106,048 千円 ・光熱費 1,048 千円 ・消耗品費 298 千円 ・研修等講師謝礼 267 千円 ・専用電話料 209 千円
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">内部評価</p>	<p>成果 教育上での様々な問題を解決するための初期の対応として、相談内容を的確に捉え、保護者やその児童・生徒が置かれている環境や心理的な状態に目を向け、適切な助言、支援を行うことができた。</p> <p>有効性 教育上の悩みや不登校等の問題解決には、早い時期から相談者の状況に応じた対応が必要である。来室相談のほか、専用電話による相談にも対応している。電話相談から来室相談につながるケースもあった。(平成 27 年度は 53 件)</p> <p>専用電話での相談は、匿名で相談することができ、気兼ねなく、教育上の悩みや不登校等の相談ができるため、有効性が高い。</p> <p>また、相談者のニーズに応じた相談体制を整え、保護者に限らず、直接、児童・生徒からの相談に対応できることから、有効性が高いと言える。</p> <p>効率性 教育上での様々な問題や悩みを早期発見し、対応するためには、早い段階での相談が有効である。年々増加する相談件数を迅速かつ効率的に対応するため、事務処理の見直しを行っている。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の課題</p>	<p>教育相談の内容は、不登校や発達の状況、対人関係、学業関係等が複雑に絡まっている場合が多く、よりきめ細やかな対応が必要となっている。相談件数が増加する中で、曜日や時間帯によっては、早急に対応できない状況も発生しており、相談員の人材確保と資質向上も必要である。</p> <p>保護者が抱えている悩みを解決するためには、早い段階での相談が望ましい。保護者の早い段階からの「気づき」を促すために、学校や関係機関(発達障害相談センター、子ども家庭支援センター)と連携を深めていく必要がある。</p>
<p>総合評価 4</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学識者意見</p>	<p>児童・生徒の抱える問題が複雑化・多様化の傾向を強めており、教育相談の重要性が年々高まっている。保護者もまた、様々な問題を抱えるようになり、教育相談の必要性が増大している。</p> <p>最近の調査結果では、各学校における取組にもかかわらず、一般的に「いじめ」「不登校」の発生件数が増加しており、本事業の重要性はさらに高まっている。きめ細かい検討によって、本事業の一層の充実を図る事が大切である。</p> <p>児童・生徒の悩みは多岐にわたる。心理士の資格を持つ相談員が、子どもたちの心情を察しながら悩みの要因を解析することで、子どもたちの悩みの解決につながるだけでなく、保護者や教員による支援の改善も期待できる。</p> <p>子どもの心を理解できる相談員の育成は難しいが、スクールカウンセラーとの関連を意識しながら、保護者や子ども自身が安心して相談できる環境の整備を進めてほしい。</p>
<p>外部評価 A</p>	

事業名	登校サポートボランティア活用事業																																																
事業目的	<p>学校長の要請により、登校サポートボランティア（通称：ステップサポーター）を配置し、対象となる児童・生徒に対して登校時の迎えや別室活動などの関わりを通して、不登校の未然防止を側面から支援する。</p>																																																
事業概要	<p>実施内容・実績</p> <p>ステップサポーターの活動 1日1～4時間、週1～2回程度活動 「登校サポートボランティア全体連絡会」を年1回行い、学校側とステップサポーターとの連携を深める場を設けた。</p> <p>ステップサポーター登録者 70人 （内訳：大学・大学院生36人、地域協力者21人、教職経験者13人）</p> <p>対象となる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迎えなどの支援があれば登校できる児童・生徒 ・登校はできても教室に入ることができない児童・生徒 <table border="1" data-bbox="459 1084 1452 1290"> <thead> <tr> <th></th> <th>別室対応</th> <th>迎え</th> <th>別室&迎え</th> <th>小計</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>4人</td> <td>23人</td> <td>15人</td> <td>42人</td> <td rowspan="2">166人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>58人</td> <td>26人</td> <td>40人</td> <td>124人</td> </tr> </tbody> </table> <p>配置実績</p> <table border="1" data-bbox="459 1348 1353 1626"> <thead> <tr> <th></th> <th>活動人数</th> <th>配置人数</th> <th>活動回数</th> <th>配置校数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td rowspan="2">41人</td> <td>26人</td> <td>783回</td> <td>22校</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>22人</td> <td>1,100回</td> <td>21校</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>41人</td> <td>48人</td> <td>1,883回</td> <td>43校</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成27年度 江戸川区の不登校児童・生徒数</p> <table border="1" data-bbox="459 1675 1391 1886"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校数</td> <td>73校</td> <td>33校</td> <td>106校</td> </tr> <tr> <td>不登校児童・生徒数</td> <td>133名</td> <td>653名</td> <td>786名</td> </tr> </tbody> </table> <p>不登校：平成27年度に連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒（「病気」や「経済的理由」による欠席を除く）</p> <p>経費</p> <p>5,404千円（内訳 人件費5,401千円、会場使用料3千円）</p>		別室対応	迎え	別室&迎え	小計	合計	小学校	4人	23人	15人	42人	166人	中学校	58人	26人	40人	124人		活動人数	配置人数	活動回数	配置校数	小学校	41人	26人	783回	22校	中学校	22人	1,100回	21校	計	41人	48人	1,883回	43校		小学校	中学校	合計	学校数	73校	33校	106校	不登校児童・生徒数	133名	653名	786名
	別室対応	迎え	別室&迎え	小計	合計																																												
小学校	4人	23人	15人	42人	166人																																												
中学校	58人	26人	40人	124人																																													
	活動人数	配置人数	活動回数	配置校数																																													
小学校	41人	26人	783回	22校																																													
中学校		22人	1,100回	21校																																													
計	41人	48人	1,883回	43校																																													
	小学校	中学校	合計																																														
学校数	73校	33校	106校																																														
不登校児童・生徒数	133名	653名	786名																																														

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">内部評価</p>	<p>成 果 年度末に、当事業を活用している学校を対象としたアンケートを実施し、対象児童・生徒の登校状況の変化を確認するとともに、学校が当事業についてどのような成果を得ているか調査した。</p> <p>その結果、対象児童・生徒のうち、小学校では 58%、中学校では 42%の子どもが「毎日 1 人で登校できるようになった」及び「毎日 1 人で教室には登校できないが、総じて登校日数が増えた」と効果が表れた。また、ステップサポーターとの関わりが児童・生徒の登校意欲を後押しし、不登校の未然防止につながった。</p> <p>有効性 不登校傾向の児童・生徒も対象に含め、早期介入を行うことは、不登校の恒常化・長期化の未然防止に効果的である。また、ステップサポーターの活動によって家庭と学校の連携が深まり、保護者や教職員が一丸となって不登校の予防・改善に取り組むようになってきている点においても効果がみられる。</p> <p>効率性 ステップサポーターの配置は、教育研究所職員が、それぞれ担当する学校に対して行っている。この担当制により、各職員は、学校の状況やステップサポーターの活動実績を長期的に把握することができ、効率的な配置やきめ細やかな対応が可能となっている。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の課題</p>	<p>迎えや別室での見守りをステップサポーターが行うことによって、児童・生徒が安心して登校できる環境づくりに寄与したが、約半数の活用校では、ステップサポーターの支援がないときに児童・生徒を登校させることが難しいとの意見があった。今後、児童・生徒が安定して登校できるよう、ステップサポーターの登録状況や児童・生徒の状況を考慮し、活動回数を増やす必要がある。</p> <p>さらに、学校やステップサポーターとの連絡・連携を深めるとともに、活用の工夫や改善事例等を各関係者に発信するなど、効果的な利用への働きかけを行っていく必要がある。</p>
<p>総合評価 4</p>	

<p>学識者意見</p>	<p>不登校をいかにして防ぎ、対応するか、児童・生徒が安心して登校できる環境をいかにして整えるか、に対して総合的に対応策を構築し、その中に本事業を適切に位置づけるという基本姿勢が大切である。</p> <p>本事業はケースに応じる実施が重要であるため、実態把握のためのアンケート調査が重要である。不登校への対応、未然防止が重要な課題になっている中、本事業には大きな意義があるだけに、取組の成果を的確に把握し、その上に立って事業の継続を構想することが求められる。</p> <p>不登校児童・生徒の多くは、朝、家を出る時に決断が渋る。そのような時に、子どもの心情を理解しているステップサポーターが行動を共にしたとき、子ども自身の心も整理することができるのではないかと。半数の子どもが登校できるようになったことは、素晴らしいことである。</p> <p>今後も、ステップサポーターを配置することで、学校も児童・生徒も安心できる環境づくりを一層進めることが望まれる。</p>
<p>外部評価 B</p>	

4 おわりに

江戸川区教育委員会では、「こころ豊かに たくましく 教育の江戸川区」という教育目標を掲げ、様々な教育施策を推進しています。

今回、平成27年度に実施した事業の中から7事業を抽出して、自己点検・評価を行い、学識経験者の意見を伺いましたが、おおむね目的に対して有効に事業が展開されているという評価にいたりました。

しかし一方で、今後も事業を継続していくにあたってはさまざまな課題があることも挙げられました。

時代の変化とともに、教育課題や区民・保護者のニーズは変化していきます。限られた財源の中でそれらに対応した施策を充実させるために、今回点検・評価を実施した事業のみならず、すべての事業について継続的に検証をおこない、適正な見直しをおこなっていく必要があります。

今後も、未来を担う子どもたちの健やかな成長のために、より効果的な施策の展開を目指してまいります。